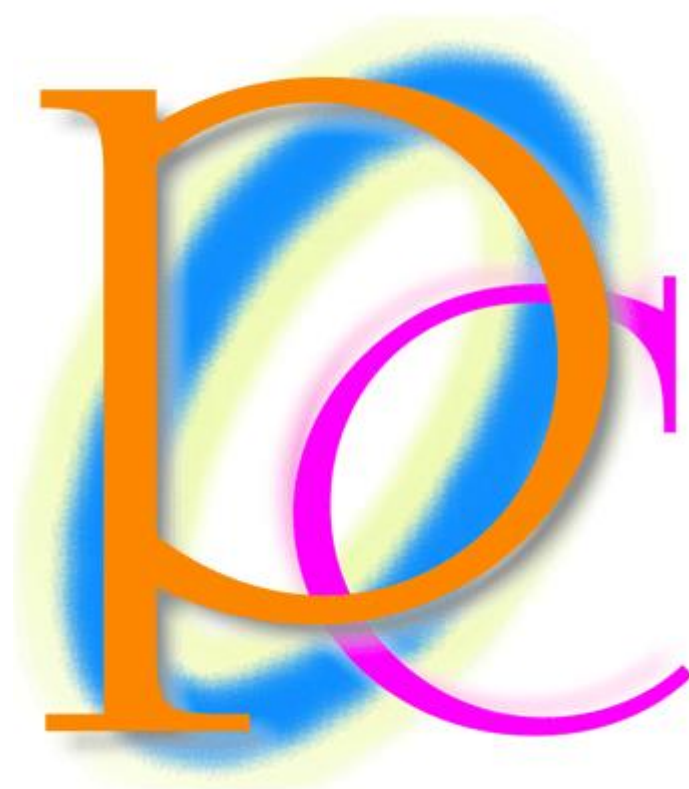


(Windows 7 Version)

# Excel 2010-06 関数プラス



体系学習★初歩からのPCテキスト

第1章: 順位を調べる RANK.EQ/RANK.AVG 関数.....	5
§1-1… 準備.....	5
§1-2… RANK.EQ 関数とは(概要) .....	6
§1-3… 降順で使う【RANK.EQ】関数.....	6
§1-4… RANK.AVG 関数とは(概要) .....	10
§1-5… 同値の場合に中央の順位を付ける【RANK.AVG】関数 .....	10
§1-6… 昇順における RANK.EQ 関数.....	12
§1-7… まとめ.....	12
§1-8… 練習問題.....	13
第2章: 集計関数の応用 .....	14
§2-1… COUNTIF 関数の検索条件に「以上/以下」を使う .....	14
§2-2… COUNTIF 関数の検索条件に「含む/*」を使う .....	17
§2-3… 条件を複数指定して集計する COUNTIFS 関数 .....	18
§2-4… AVERAGEIFS や SUMIFS 関数.....	21
§2-5… 分析ツールアドインでヒストグラムの作成.....	25
§2-6… まとめ.....	28
§2-7… 練習問題.....	28
§2-8… 練習問題.....	30
第3章: 配列数式.....	32
§3-1… 準備.....	32
§3-2… 掛け算を使った配列数式 概要 [範囲×範囲].....	33
§3-3… 配列数式の作成.....	34
§3-4… 定数を用いた配列数式 [範囲×定数].....	35
§3-5… 数式内のセル配列を値配列に変換 .....	36
§3-6… [範囲×範囲×定数]の配列数式 .....	37
§3-7… 論理式と数値…TRUE は「1」、FALSE は「0」 .....	38
§3-8… まとめ.....	40
§3-9… 練習問題.....	41
第4章: 日付と時刻の処理 .....	43
§4-1… 準備.....	43
§4-2… 【TODAY】関数と【NOW】関数を使う .....	43
§4-3… TODAY・NOW の比較と研究 .....	45
§4-4… 日付データを分解する/【YEAR】関数/西暦の取得 .....	46
§4-5… 日付データを分解する/【MONTH・DAY】関数/月・日の取得 .....	47
§4-6… 【DATE】関数の原理・分解した日付を再結合する.....	48
§4-7… DATE 関数の活用方法.....	50
§4-8… DATE 関数を使わずに「日」の計算をする .....	52
§4-9… 日付・時刻・数値の研究・表示形式(参考学習).....	52
§4-10… 時刻の分解・【HOUR/MINUTE/SECOND】 .....	53
§4-11… 【TIME】関数の活用方法 .....	56
§4-12… セル参照を使って時間計算させてみる.....	57

§ 4-13	… その他の時刻の計算方法	58
§ 4-14	… まとめ	59
§ 4-15	… 練習問題	60
§ 4-16	… 練習問題	60
第 5 章	曜日の処理	69
§ 5-1	… 準備	69
§ 5-2	… 曜日を調べる【WEEKDAY】関数	69
§ 5-3	… VLOOKUP 関数で曜日番号から曜日名を割り出す	71
§ 5-4	… 関数のネストの復習	73
§ 5-5	… 表示形式適用後の値を取得する【TEXT】関数	76
§ 5-6	… TEXT 関数とは(概要)	77
§ 5-7	… まとめ	77
§ 5-8	… 練習問題	78
第 6 章	その他の関数	83
§ 6-1	… 商の出し方 1/ROUNDDOWN の復習	83
§ 6-2	… 商の出し方 2【QUOTIENT】	83
§ 6-3	… 余り【MOD】	84
§ 6-4	… 練習問題	85
§ 6-5	… 標準偏差【STDEV】	86
§ 6-6	… 偏差値 $[(\text{点数} - \text{平均点}) \times 10 \div \text{標準偏差} + 50]$	87
§ 6-7	… 練習問題	88
§ 6-8	… 円周率【PI】	89
§ 6-9	… 乱数の作成 1【RAND】	90
§ 6-10	… 乱数の作成 2【RANDBETWEEN】	90
§ 6-11	… 練習問題	91
§ 6-12	… 倍数 1・超えない【FLOOR】	93
§ 6-13	… 倍数 2・ぎりぎり超える【CEILING】	95
§ 6-14	… 練習問題	96
第 7 章	文字列操作関数	98
§ 7-1	… 文字数を数える【LEN】	98
§ 7-2	… 文字位置の検索【SEARCH】	99
§ 7-3	… 文字列の抽出【LEFT・RIGHT】	100
§ 7-4	… 位置を指定した文字列の抽出【MID】	101
§ 7-5	… 文字列の置換【SUBSTITUTE】	102
§ 7-6	… まとめ	103
§ 7-7	… 練習問題	103

…  →操作説明

…  →補足説明

- 記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。
- 本書の例題や画面などに登場する企業名や製品名、人名、キャラクター、その他のデータは架空のものです。現実の個人名や企業、製品、イベントを表すものではありません。
- 本文中には™,®マークは明記しておりません。
- 本書は著作権法上の保護を受けております。
- 本書の一部あるいは、全部について、合資会社アルファから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することを禁じます。ただし合資会社アルファから文書による許諾を得た期間は除きます。
- 無断複製、転載は損害賠償、著作権法の罰則の対象になることがあります。
- この教材はMicrosoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
  - ◆ Version No : Excel2010-06-関数プラス-130427
  - ◆ 著作・製作 合資会社アルファ  
〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 118-2 中山 NS ビル 6F
  - ◆ 発行人 三橋信彦
  - ◆ 定価 ¥5,040 円

# 第1章:順位を調べる RANK.EQ/RANK.AVG 関数

## § 1-1…準備

以下のような表を作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3	
3		1	庄司	82				
4		2	丸山	94				
5		3	萩原	82				
6		4	星	91				
7		5	高見	70				
8		6	井上	85				
9		7	沖田	68				
10		8	佐々木	82				
11		9	加納	79				
12								

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82									
4		2	丸山	94									
5		3	萩原	82									
6		4	星	91									
7		5	高見	70									
8		6	井上	85									
9		7	沖田	68									
10		8	佐々木	82									
11		9	加納	79									

## § 1-2…RANK.EQ 関数とは(概要)

RANK.EQ 関数はある数値のグループ内の順位を調べる関数です。数値が大きい人を1位とする「降順」の順位付けと、小さい人を1位とする「昇順」の順位付けがあります。引数は「数値」「参照」の二つが必要です。「順序」は省略可能です。

### RANK.EQ 関数の書式

#### RANK.EQ=(数値,参照,順序)

…[参照]で指定した範囲内で、[数値]は何番目のデータなのかを表示する。同値の場合は上位の順位を表示する。

#### <引数解説>

**数値:**どの数値の順位を調べるのかを指定する欄。

**参照:**数値が属するグループ・母集団の範囲を指定する欄。

**順序:**省略可能。省略時は、数値が大きい人を1位とする「降順」の順位付けをする。数値が小さい人を1位とする「昇順」の順位付けをする際は「0以外」の値を指定する(「1」など)。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		出席番号	点数	順位1	D列の式	順位2	F列の式	
3		1	65	7	=RANK.EQ(C3,C3:C12)	2	=RANK.EQ(C3,C3:C12,1)	
4		2	80	2	=RANK.EQ(C4,C3:C12)	8	=RANK.EQ(C4,C3:C12,1)	
5		3	55	10	=RANK.EQ(C5,C3:C12)	1	=RANK.EQ(C5,C3:C12,1)	
6		4	70	6	=RANK.EQ(C6,C3:C12)	5	=RANK.EQ(C6,C3:C12,1)	
7		5	80	2	=RANK.EQ(C7,C3:C12)	8	=RANK.EQ(C7,C3:C12,1)	
8		6	85	1	=RANK.EQ(C8,C3:C12)	10	=RANK.EQ(C8,C3:C12,1)	
9		7	75	4	=RANK.EQ(C9,C3:C12)	6	=RANK.EQ(C9,C3:C12,1)	
10		8	65	7	=RANK.EQ(C10,C3:C12)	2	=RANK.EQ(C10,C3:C12,1)	
11		9	75	4	=RANK.EQ(C11,C3:C12)	6	=RANK.EQ(C11,C3:C12,1)	
12		10	65	7	=RANK.EQ(C12,C3:C12)	2	=RANK.EQ(C12,C3:C12,1)	
13								

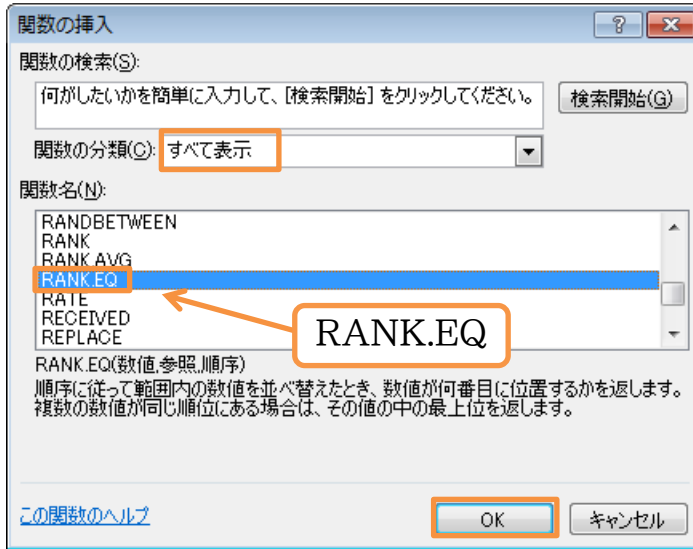
例

## § 1-3…降順で使う【RANK.EQ】関数

(1) RANK.EQ 関数を使用すると、ある値は集団の中で上から何番目に位置しているのかわかります。E列に各人の順位を出します。まずは庄司さんがこの中では何位なのかを表示させます。E3をアクティブにして[関数の挿入]をクリックして下さい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1				関数の挿入									
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82									
4		2	丸山	94									
5		3	萩原	82									
6		4	星	91									
7		5	高見	70									
8		6	井上	85									
9		7	沖田	68									
10		8	佐々木	82									
11		9	加納	79									
12													

## (2) RANK.EQ 関数を選んで下さい。



## (3) [数値]はどの値の順位を調べるのかを指定する引数です。庄司さんのスコアになるので D3 を指定します。

RANK.EQ =RANK.EQ(D3)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3	
3		1	庄司	82	EQ(D3)			
4		2	丸山	94				
5		3	萩原	82				
6		4	星	91				
7		5	高見	70				
8		6	井上	85				
9		7	沖田	68				
10		8	佐々木	82				
11		9	加納	79				

関数の引数

RANK.EQ

数値 D3 = 82

参照 = 参照

順序 = 論理

順序に従って範囲内の数値を並べ替えたとき、数値が何番目に位置するかを返します。複数の数値が同じ順位にある場合は、その値の中の最上位を返します。

数値 (には順位を調べる数値を指定します。)

数式の結果 =

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

## (4) 続いて[参照]です。[参照]では対象の数値グループすべてを指定します。これが母集団となります。こうすれば[参照]の数値群の中で指定した[数値]は上から何番目なのか、を調べることができるのです。「D3:D11」を指定し OK して下さい。[順序]は省略可能です(「0」と入れてもよい)。

RANK.EQ =RANK.EQ(D3,D3:D11)

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3
3		1	庄司	82	D3:D11)		
4		2	丸山	94			
5		3	萩原	82			
6		4	星	91			
7		5	高見	70			
8		6	井上	85			
9		7	沖田	68			
10		8	佐々木	82			
11		9	加納	79			

関数の引数

RANK.EQ

数値 D3 = 82

参照 D3:D11 = {82;94;82;91;70;85;68;82;79}

順序 = 論理

順序に従って範囲内の数値を並べ替えたとき、数値が何番目に位置するかを返します。複数の数値が同じ順位にある場合は、その値の中の最上位を返します。

参照 (には数値を含むセル範囲の参照、または配列を指定します。数値以外の値は無視されます。)

数式の結果 = 4

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

(5) E3 に庄司さんの順位が出ました。これを E11 までコピーして下さい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94									
5		3	萩原	82									
6		4	星	91									
7		5	高見	70									
8		6	井上	85									
9		7	沖田	68									
10		8	佐々木	82									
11		9	加納	79									
12													

(6) しかし先頭の部分は正しいのにコピーするとおかしくなります。なぜでしょうか？  
79点である加納さんが「1位」であるということは明らかにおかしい現象です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94	1								
5		3	萩原	82	3								
6		4	星	91	1								
7		5	高見	70	4								
8		6	井上	85	1								
9		7	沖田	68	3								
10		8	佐々木	82	1								
11		9	加納	79	1								
12													
13													

(7) E11 で {F2} キーを使うと、参照セルがおかしくなってしまったことがわかります。調べる対象の[数値]は良いのですが、母集団である数値グループ[参照]が、コピーと同時にずれてしまったのです。[参照]では全員が同じ個所を参照しなければなりません。{Esc}キーで通常状態に戻します。

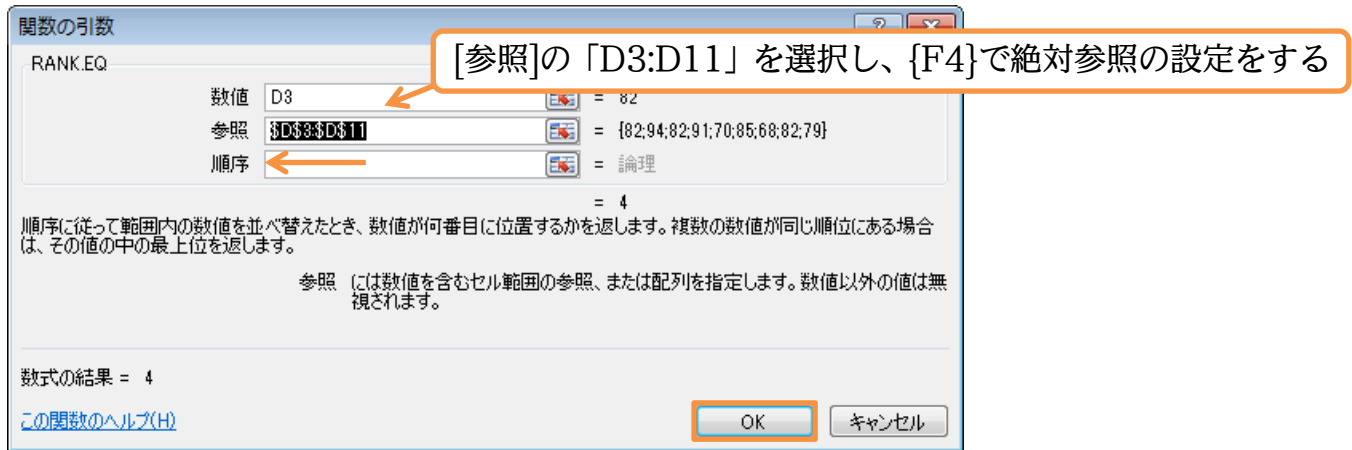
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94	1								
5		3	萩原	82	3								
6		4	星	91	1								
7		5	高見	70	4								
8		6	井上	85	1								
9		7	沖田	68	3								
10		8	佐々木	82	1								
11		9	加納	79	=RANK.EQ(D11,D11:D19)								
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													

(8) 母集団である[参照]は絶対参照しておかないと、コピーした際におかしくなります。先頭の式を修正します。E3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックして下さい。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2							
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94	1								
5		3	萩原	82	3								
6		4	星	91	1								
7		5	高見	70	4								
8		6	井上	85	1								
9		7	沖田	68	3								
10		8	佐々木	82	1								
11		9	加納	79	1								
12													



(9) [参照]の範囲に対して、絶対参照をしてから OK しましょう。



(10) E3 の式を E11 までコピーしましょう。なお、同点 4 位の人が 3 名います(4~6 位)。すべて 4 位扱いとなります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94	1								
5		3	萩原	82	4								
6		4	星	91	2								
7		5	高見	70	8								
8		6	井上	85	3								
9		7	沖田	68	9								
10		8	佐々木	82	4								
11		9	加納	79	7								
12													
13													

## § 1-4…RANK.AVG 関数とは(概要)

RANK.AVG 関数も数値のグループ内の順位を調べる関数です。ただし同値がある場合、同値順位の平均を表示します。

RANK.AVG 関数の書式

**RANK.AVG=(数値,参照,順序)**

…[参照]で指定した範囲内で、[数値]は何番目のデータなのかを表示する。同値の場合は平均の順位を表示する。

<引数解説>

**数値:**どの数値の順位を調べるのかを指定する欄。

**参照:**数値が属するグループ・母集団の範囲を指定する欄。

**順序:**省略可能。省略時は、数値が大きい人を1位とする「降順」の順位付けをする。数値が小さい人を1位とする「昇順」の順位付けをする際は「0以外」の値を指定する(「1」など)。

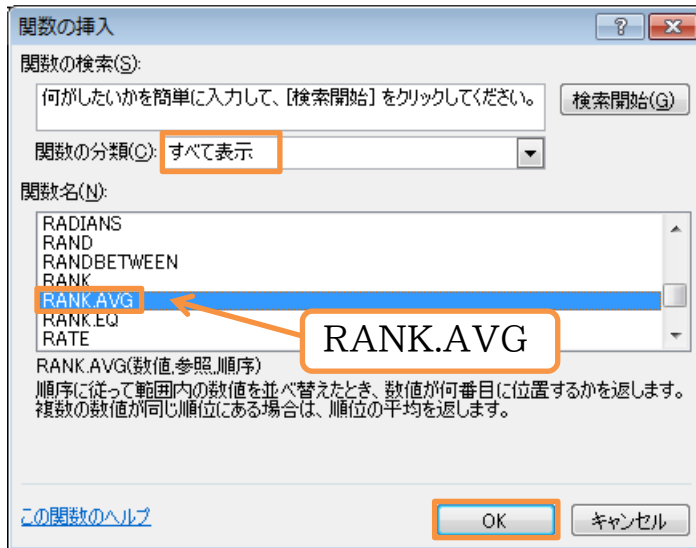
	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		出席番号	点数	順位1	D列の式	順位2	F列の式	
3		1	65	8	=RANK.AVG(C3,C3:C12)	3	=RANK.AVG(C3,C3:C12,1)	例
4		2	80	2.5	=RANK.AVG(C4,C3:C12)	8.5	=RANK.AVG(C4,C3:C12,1)	
5		3	55	10	=RANK.AVG(C5,C3:C12)	1	=RANK.AVG(C5,C3:C12,1)	
6		4	70	6	=RANK.AVG(C6,C3:C12)	5	=RANK.AVG(C6,C3:C12,1)	
7		5	80	2.5	=RANK.AVG(C7,C3:C12)	8.5	=RANK.AVG(C7,C3:C12,1)	
8		6	85	1	=RANK.AVG(C8,C3:C12)	10	=RANK.AVG(C8,C3:C12,1)	
9		7	75	4.5	=RANK.AVG(C9,C3:C12)	6.5	=RANK.AVG(C9,C3:C12,1)	
10		8	65	8	=RANK.AVG(C10,C3:C12)	3	=RANK.AVG(C10,C3:C12,1)	
11		9	75	4.5	=RANK.AVG(C11,C3:C12)	6.5	=RANK.AVG(C11,C3:C12,1)	
12		10	65	8	=RANK.AVG(C12,C3:C12)	3	=RANK.AVG(C12,C3:C12,1)	
13								

## § 1-5…同値の場合に中央の順位を付ける【RANK.AVG】関数

(1) 現在4位の人が3名います(4~6位)。これらを中央値・平均値である5位扱いにするには「RANK.AVG」関数を使います。F列に作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4								
4		2	丸山	94	1								
5		3	萩原	82	4								
6		4	星	91	2								
7		5	高見	70	8								
8		6	井上	85	3								
9		7	沖田	68	9								
10		8	佐々木	82	4								
11		9	加納	79	7								
12													
13													

## (2) RANK.AVG 関数を選んで下さい。



## (3) 使い方は RANK.EQ 関数と同じです。[数値]に「D3」、[参照]に「D3:D11」を絶対参照で指定します。

RANK.AVG =RANK.AVG(D3,\$D\$3:\$D\$11)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3			
3		1	庄司	82	4	\$D\$11				
4		2	丸山	94						
5		3	萩原	82						
6		4	星	91						
7		5	高見	70						
8		6	井上	85						
9		7	沖田	68						
10		8	佐々木	82						
11		9	加納	78						

関数の引数

RANK.AVG

数値 D3 = 82

参照 \$D\$3:\$D\$11 = {82;94;82;91;70;85;68;82;79}

順序 = 論理

= 5

順序に従って範囲内の数値を並べ替えたとき、数値が何番目に位置するかを返します。複数の数値が同じ順位にある場合は、順位の平均を返します。

順序 (には範囲内の数値を並べ替える方法を表す数値を指定します。順序に 0 を指定するか省略すると、降順で並べ替えられ、0 以外の数値を指定すると、昇順で並べ替えられます。)

数式の結果 = 5

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

## (4) 完成したら 11 行目までコピーして下さい。4~6 位の人たちが 5 位扱いになります。

F3 =RANK.AVG(D3,\$D\$3:\$D\$11)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3						
3		1	庄司	82	4	5							
4		2	丸山	94	1	1							
5		3	萩原	82	4	5							
6		4	星	91	2	2							
7		5	高見	70	8	8							
8		6	井上	85	3	3							
9		7	沖田	68	9	9							
10		8	佐々木	82	4	5							
11		9	加納	78	7	7							

## § 1-6…昇順における RANK.EQ 関数

- (1) G 列には数字の小さい人が 1 位になるよう順位付けをします。G3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックし、RANK.EQ 関数を選択して下さい。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3
3		1	庄司	82	4	5	
4		2	丸山	94	1	1	
5		3	萩原	82	4	5	
6		4	星	91	2	2	
7		5	高見	70	8	8	
8		6	井上	85	3	3	
9		7	沖田	68	9	9	
10		8	佐々木	82	4	5	
11		9	加納	79	7	7	

- (2) [数値][参照]には先ほどと同様のセル・範囲を指定します。続けて[順序]を指定します。数値が小さいレコードが 1 位になるようにするには「0」以外の値を入力します。今回は「1」にして OK しましょう。

関数の引数

RANK.EQ

数値 D3 = 82

参照 \$D\$3:\$D\$11 = {82;94;82;91;70;85;68;82;79}

順序 1 = TRUE

結果 = 4

順序に従って範囲内の数値を並び替えたとき、数値が何番目に位置するかを返します。複数の数値が同じ順位にある場合は、その値の中の最上位を返します。

順序に 0 を指定すると、昇順で数値を指定します。順序に 0 を指定され、0 以外の数値を指定すると、昇順で

数式の結果 = 4

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

- (3) G3 の式を G11 までコピーしましょう。[数値が大きいレコードが 1 位]は「降順」です。降順にするには[順序]を省略するか「0」を指定します。「0 以外」の数値を[順位]に使用した場合は「昇順」です。[数値が小さいレコードが 1 位]となります。ゴルフの結果や陸上競技のタイムなどは昇順です。完成後はこのファイルを閉じましょう。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		会員番号	氏名	スコア	順位1	順位2	順位3
3		1	庄司	82	4	5	4
4		2	丸山	94	1	1	9
5		3	萩原	82	4	5	4
6		4	星	91	2	2	8
7		5	高見	70	8	8	2
8		6	井上	85	3	3	7
9		7	沖田	68	9	9	1
10		8	佐々木	82	4	5	4
11		9	加納	79	7	7	3

## § 1-7…まとめ

- ◆ RANK.EQ、RANK.AVG 関数ともに、順位を調べる関数です。「降順」は最も大きい値を 1 位に、「昇順」は最も小さい値を 1 位にします。「昇順」の場合は[順序]に「1」などを指定します。
- ◆ RANK.EQ 関数では同値の場合に上位の順位が表示されます。RANK.AVG 関数では同値の場合に平均の順位が表示されます。

## § 1-8…練習問題

(1) 各人の順位を出しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2	ID	姓	国語	英語	数学	合計	順位		
3	1001	高野	76	96	86	258	2		
4	1002	前田	69	93	74	236	6		
5	1003	星	89	72	95	256	3		
6	1004	金子	58	87	76	221	9		
7	1005	二ノ宮	78	70	73	221	9		
8	1006	馬場	81	80	68	229	7		
9	1007	岡野	74	81	66	221	9		
10	1008	千葉	81	93	94	268	1		
11	1009	越野	78	89	75	242	5		
12	1010	堺	69	74	64	207	12		
13	1011	諸星	78	72	72	222	8		
14	1012	佐々岡	88	78	86	252	4		
15									

(2) 1500m 走の結果です。各人の順位を出しましょう。タイムが良い人が上位に来ます。

	A	B	C	D	E	F
1						
2	ID	姓	タイム	順位		
3	1001	高野	0:04:27	3		
4	1002	前田	0:04:28	4		
5	1003	星	0:04:39	5		
6	1004	金子	0:04:24	1		
7	1005	二ノ宮	0:05:02	9		
8	1006	馬場	0:04:24	1		
9	1007	岡野	0:04:39	5		
10	1008	千葉	0:05:28	12		
11	1009	越野	0:05:02	9		
12	1010	堺	0:04:44	8		
13	1011	諸星	0:05:14	11		
14	1012	佐々岡	0:04:43	7		
15						

(3) 以下はゴルフの結果です。順位を出しましょう。順位 1 には同スコアの場合高い方の順位を表示させます。順位 2 には同スコアの場合は順位を平均値で分け合った結果を表示させます。また順位 2 の結果から最下位には 0 ポイント、以後順位が上がるごとに 10 ポイントずつ与えます。同点の場合はポイントを分け与えます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2	ID	姓	スコア	順位1	順位2	ポイント		
3	1001	高野	122	11	11.0	10		
4	1002	前田	104	8	8.0	40		
5	1003	星	98	7	7.0	50		
6	1004	金子	121	9	9.5	25		
7	1005	二ノ宮	125	12	12.0	0		
8	1006	馬場	79	1	1.0	110		
9	1007	岡野	91	6	6.0	60		
10	1008	千葉	121	9	9.5	25		
11	1009	越野	84	3	3.5	85		
12	1010	堺	83	2	2.0	100		
13	1011	諸星	85	5	5.0	70		
14	1012	佐々岡	84	3	3.5	85		
15								
16	平均		99.75			55		
17								

順位	ポイント
1	110
2	100
3	90
4	80
5	70
6	60
7	50
8	40
9	30
10	20
11	10
12	0

(参考:ポイント表)

$(12 - \text{順位}) \times 10$   
の式でポイントが算出される

## 第2章:集計関数の応用

### § 2-1…COUNTIF 関数の検索条件に「以上/以下」を使う

(1) 以下のような表を作成しましょう。クラスは半角で入力します。

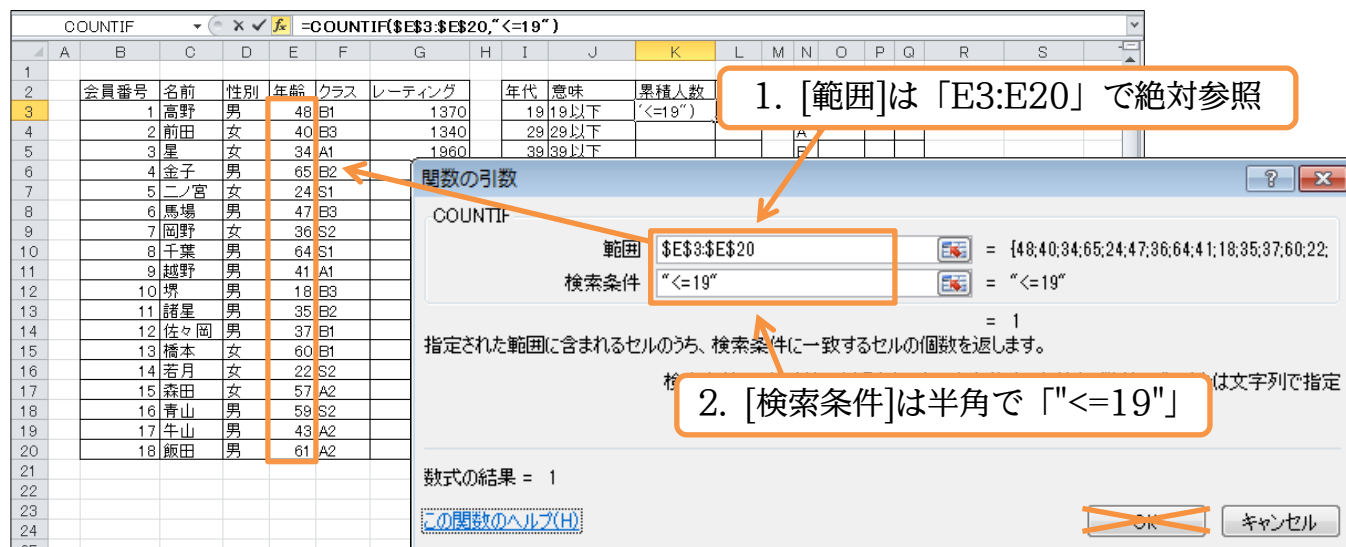
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1																	
2	会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング		年代	意味	累積人数	人数			人数	男	女	
3	1	高野	男	48	B1	1370		19	19以下				S				
4	2	前田	女	40	B3	1340		29	29以下				A				
5	3	星	女	34	A1	1960		39	39以下				B				
6	4	金子	男	65	B2	1310		49	49以下								
7	5	二ノ宮	女	24	S1	2280		59	59以下								
8	6	馬場	男	47	B3	1180		69	69以下								
9	7	岡野	女	36	S2	2110		79	79以下								
10	8	千葉	男	64	S1	2300											
11	9	越野	男	41	A1	1850			平均レート	男	女						
12	10	堺	男	18	B3	1170	S1										
13	11	諸星	男	35	B2	1360	S2										
14	12	佐々岡	男	37	B1	1600	A1										
15	13	橋本	女	60	B1	1640	A2										
16	14	若月	女	22	S2	2180	B1										
17	15	森田	女	57	A2	1790	B2										
18	16	青山	男	59	S2	1900	B3										
19	17	牛山	男	43	A2	1750											
20	18	飯田	男	61	A2	1810											
21																	

(2) セル K3 には E 列の中に「19 以下」の値が何セルあるかを COUNTIF 関数で調べた結果を表示させます。

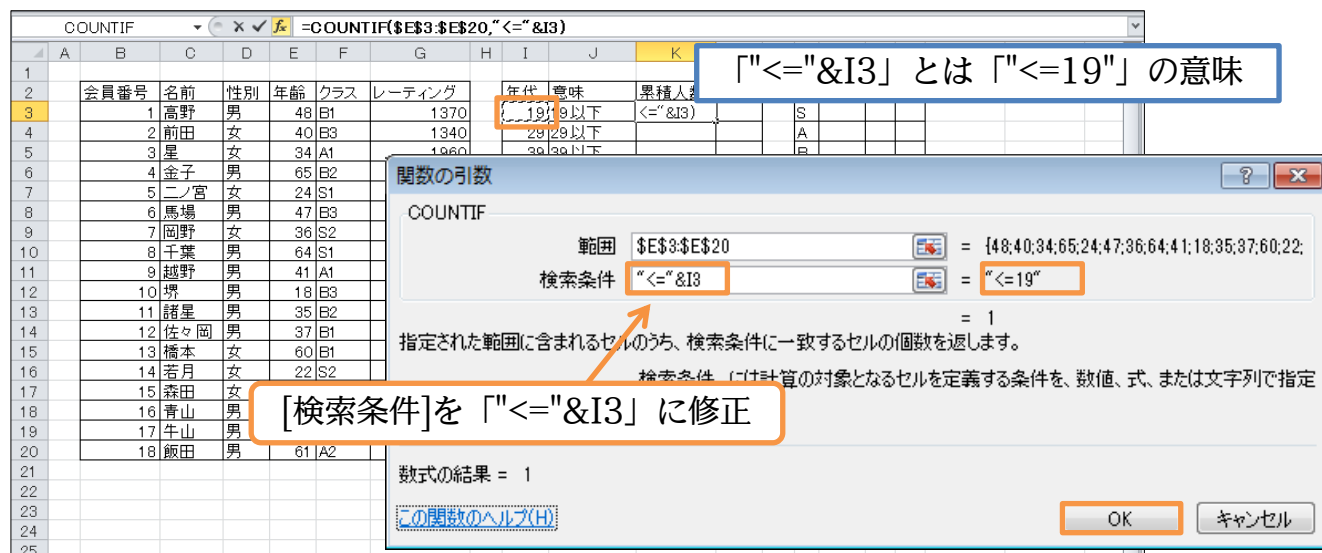
(3) [統計]にある COUNTIF 関数を使って結合します。



(4) [範囲]は「E3:E20」で絶対参照します。さて[検索条件]を「以上/以下」とする場合には「比較演算子・比較値」と指定します。よって「19以下」なら「<=19」です。ただしこの場合は全体を「"」で囲みます。文字列指定しなければならないのです。よって「"<=19"」となります。まだ確定しません。



(5) しかしこのままではコピーできませんので、「19」の部分セル「I3」に変更します。「<=」と「I3」を分離します。そしてそれぞれを連結しなければならないので「半角」の「&」で結びます。設定後は OK します。



(6) K3の式をK9までコピーしましょう。それぞれ「19以下、29以下、39以下…79以下」のセル数が表示されます。累計で表示されるのです。

会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数
1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1
2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	3
3	星	女	34	A1	1960	39	39以下	7	7
4	金子	男	65	B2	1310	49	49以下	12	12
5	二ノ宮	女	24	S1	2280	59	59以下	14	14
6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	18
7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	18

(7) L列には各年代の人数を表示させます。まずL3には「=K3」の式を作成します。

会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数	人数	男	女
1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1			
2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	3			
3	星	女	34	A1	1960	39	39以下	7	7			
4	金子	男	65	B2	1310	49	49以下	12	12			
5	二ノ宮	女	24	S1	2280	59	59以下	14	14			
6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	18			
7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	18			

(8) L4以降には各年代の累積とそれまでの累積との差を出すのです。

会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数	人数	男	女
1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1			
2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	3			
3	星	女	34	A1	1960	39	39以下	7	7			
4	金子	男	65	B2	1310	49	49以下	12	12			
5	二ノ宮	女	24	S1	2280	59	59以下	14	14			
6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	18			
7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	18			



## (9) L4の式はL9までコピーします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1																			
2		会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング		年代	意味	累積人数	人数		人数	男	女			
3		1	高野	男	48	B1	1370		19	19以下	1	1		S					
4		2	前田	女	40	B3	1340		29	29以下	3	2		A					
5		3	星	女	34	A1	1960		39	39以下	7	4		B					
6		4	金子	男	65	B2	1310		49	49以下	12	5							
7		5	二ノ宮	女	24	S1	2280		59	59以下	14	2							
8		6	馬場	男	47	B3	1180		69	69以下	16	4							
9		7	岡野	女	36	S2	2110		79	79以下	18	0							
10		8	千葉	男	64	S1	2300												
11		9	越野	男	41	A1	1850												
12		10	堺	男	18	B3	1170												
13		11	諸星	男	35	B2	1360		S1										
14		12	佐々岡	男	37	B1	1600		S2										
15		13	橋本	女	60	B1	1640		A1										
16		14	若月	女	22	S2	2180		A2										
17		15	森田	女	57	A2	1790		B1										
18		16	青山	男	59	S2	1900		B2										
19		17	牛山	男	43	A2	1750		B3										
20		18	飯田	男	61	A2	1810												

L4の式をL9まで複写

## § 2-2…COUNTIF関数の検索条件に「含む/\*」を使う

- (1) O列には「S,A,B」クラスの人数をCOUNTIF関数で調べた結果を表示させます。まずはセルO3です。COUNTIF関数を使い、[範囲]にF3からF20を絶対参照で指定します。[検索条件]には「Sで始まる」を指定します。Sのあとにワイルドカードを使うならば半角の「\*」を使います。すなわち「S\*」を文字列指定します。まだ確定しません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1																	
2		会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング		年代	意味	累積人数	人数		人数	男	女	
3		1	高野	男	48	B1	1370		19	19以下	1	1		S	S*		
4		2	前田	女	40	B3	1340		29	29以下	3	2		A			
5		3	星	女	34	A1	1960		39	39以下	7	4		B			
6		4	金子	男	65	B2	1310		49	49以下	12	5					
7		5	二ノ宮	女	24	S1	2280										
8		6	馬場	男	47	B3	1180										
9		7	岡野	女	36	S2	2110										
10		8	千葉	男	64	S1	2300										
11		9	越野	男	41	A1	1850										
12		10	堺	男	18	B3	1170										
13		11	諸星	男	35	B2	1360										
14		12	佐々岡	男	37	B1	1600										
15		13	橋本	女	60	B1	1640										
16		14	若月	女	22	S2	2180										
17		15	森田	女	57	A2	1790										
18		16	青山	男	59	S2	1900										
19		17	牛山	男	43	A2	1750										
20		18	飯田	男	61	A2	1810										

1. セル O3 で COUNTIF 関数の作成を開始

2. [範囲]は「F3:F20」で絶対参照

3. [検索条件]は半角で「S\*」

関数の引数  
COUNTIF  
範囲 \$F\$3:\$F\$20  
検索条件 "S\*"  
= ["B1";"B3";"A1";"B2";"S1";"B3";"S2";  
= "S\*"  
= 5  
指定された範囲に含まれるセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返します。  
数式の結果 = 5  
この関数のヘルプ(H) OK キャンセル

(2) ただしこれではコピーできないので「S」をセル N3 に置き換えます。N3 と「\*」は「&」で連結します。よって[検索条件]を「N3&"\*"」とします。

「N3&"\*"」とは「S\*'」の意味

関数の引数  
COUNTIF  
範囲 \$F\$3:\$F\$20 = {"B1","B3","A1","B2","S1","B3","S2"}  
検索条件 N3&"\*" = "S\*"  
= 5  
指定された範囲に含まれるセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返します。  
検索条件 (計算の対象となるセルを定義する条件を、数値、式、または文字列で指定)

[検索条件]を「N3&"\*"」に修正

数式の結果 = 5

OK キャンセル

(3) セル O3 の式をセル O5 までコピーしましょう。

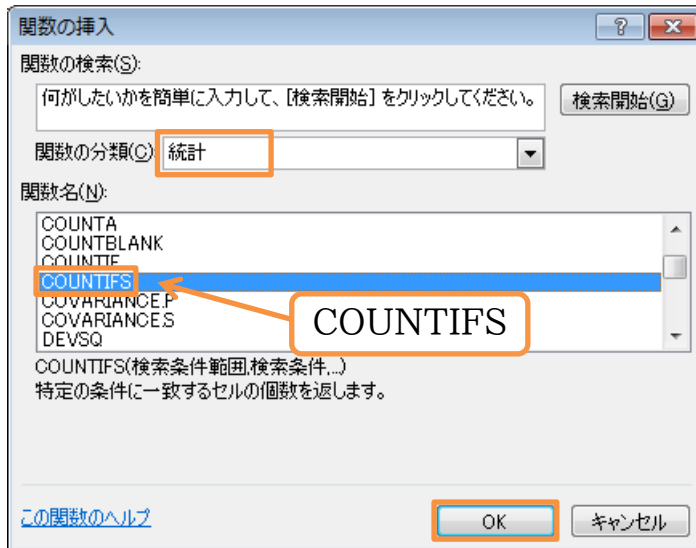
セル O3 の式をセル O5 まで複写

## § 2-3…条件を複数指定して集計する COUNTIFS 関数

(1) 今度は「S を含み」「男」であるレコードの数を調査します。結果は P3:Q5 に表示します。複数の条件を絞り込みで指定する形式で COUNTIF 関数を使う場合は「COUNTIFS」関数を使います。複数の条件が指定できます。

セル P3 で関数の作成を開始

(2) [統計]にある COUNTIFS 関数を使って結合します。



(3) [検索条件範囲 1]は「F3:F20」とします。行方向列方向ともに絶対参照します。[検索条件 1]は「N3&"\*"とします。ただし「N 列」のみに絶対参照します。

会員番号	名前	性別	年齢	クラブ	レーティング	年代	意味	累積人数	人数	人数	男	女
1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1	5		
2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	2	5		
3	星	女	34	A1	1360	20	20以下	7	4	8		
4	金子	男	68	B2								
5	二ノ宮	女	24	S1								
6	馬場	男	41	B3								
7	岡野	女	36	S2								
8	千葉	男	64	S1								
9	越野	男	41	A1								
10	堺	男	18	B3								
11	諸星	男	38	B2								
12	佐々岡	男	31	B1								
13	橋本	女	60	B1								
14	若月	女	24	S2								
15	森田	女	51	A2								
16	青山	男	59	S2								
17	牛山	男	43	A2								
18	飯田	男	61	A2								

(4) 続けて[検索条件範囲 2]は「D3:D20」とします。行方向列方向ともに絶対参照します。  
 [検索条件 2]は「P2」とします。ただし「2 行目」のみに絶対参照します。完成後は  
 OK します。あとで「Q 列→5 行目」とコピーします。

関数の引数  
 COUNTIFS  
 検索条件範囲1 \$F\$3:\$F\$20  
 検索条件1 \$N3&"\*"  
 検索条件範囲2 \$D\$3:\$D\$20  
 検索条件2 P\$2

数式の結果 = 2  
[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

[検索条件範囲 2]は「D3:D20」(行方向列方向ともに絶対参照)。  
 [検索条件 2]は「P2」(「2 行目」のみに絶対参照)。

(5) P3 の計算式を「Q 列→5 行目」へとコピーして下さい。

P3  
 =COUNTIFS(\$F\$3:\$F\$20,\$N3&"\*", \$D\$3:\$D\$20,P\$2)

P3 の計算式を「Q 列→5 行目」へとコピー

(6) 検索条件を複数指定して、すべてを満たしているレコード数だけを調べる場合は  
 COUNTIFS 関数を使用するのです。

P3  
 =COUNTIFS(\$F\$3:\$F\$20,\$N3&"\*", \$D\$3:\$D\$20,P\$2)

[検索条件範囲 1]には 18 セル  
 指定した。[検索条件範囲 2]  
 以降も同じ 18 セルを指定しな  
 ければならない。

## § 2-4…AVERAGEIFS や SUMIFS 関数

- (1) J12 以下に、各クラスの平均レーティングを算出します。まずは J12 に S1 クラスの平均レーティングを出します。

J12		関数の挿入																	
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	
1																			
2	会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数			人数	男	女				
3	1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1			S	5	2	3			
4	2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	2			A	5	3	2			
5	3	星	女	34	A1								B	8	6	2			
6	4	金子	男	65	B2														
7	5	二ノ宮	女	24	S1														
8	6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	4									
9	7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	0									
10	8	千葉	男	64	S1	2300													
11	9	越野	男	41	A1	1850			平均レート	男	女								
12	10	堺	男	18	B3	1170			S1										
13	11	諸星	男	35	B2	1360			S2										
14	12	佐々岡	男	37	B1	1600			A1										
15	13	橋本	女	60	B1	1640			A2										
16	14	若月	女	22	S2	2180			B1										
17	15	森田	女	57	A2	1790			B2										
18	16	青山	男	59	S2	1900			B3										
19	17	牛山	男	43	A2	1750													
20	18	飯田	男	61	A2	1810													

セル J12 で関数の作成を開始

- (2) [統計]にある AVERAGEIF 関数を使います。

関数の挿入

関数の検索(S):  
何がしたいかを簡単に入力して、[検索開始]をクリックしてください。 検索開始(G)

関数の分類(C): 統計

関数名(N):

- AVEDEV
- AVERAGE
- AVERAGEA
- AVERAGEIF
- AVERAGEIFS
- BETA.DIST
- BETA.INV

AVERAGEIF(範囲,条件,平均対象範囲)  
特定の条件に一致する数値の平均(算術平均)を計算します。

OK キャンセル

[この関数のヘルプ](#)

(3) [範囲]は「F3:F20」で絶対参照、[条件]は「S1」が入力されているセル「I12」とします。[平均対象範囲]は「G3:G20」で絶対参照します。

関数の引数  
AVERAGEIF

範囲  = {"B1","B3","A1","B2","S1","B3","S2..."}  
 条件  = "S1"  
 平均対象範囲  = {1370;1340;1960;1310;2280;1180;2110;2300;1850;1170;1360;1600;1640;2180;1790;1900;1750;1810}

特定の条件に一致する数値の平均(算術平均)を計算します。  
 平均対象範囲 (これは、実際に平均を求めるのに使用されるセルを指定します。省略した場合、範囲内のセルが使用されます。)

数式の結果 = 2290

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

(4) J12 に作成した計算式を 18 行目までコピーして下さい。

J12

J12 の式を 18 行目までコピー

(5) 小数点 1 桁までの表示にします。

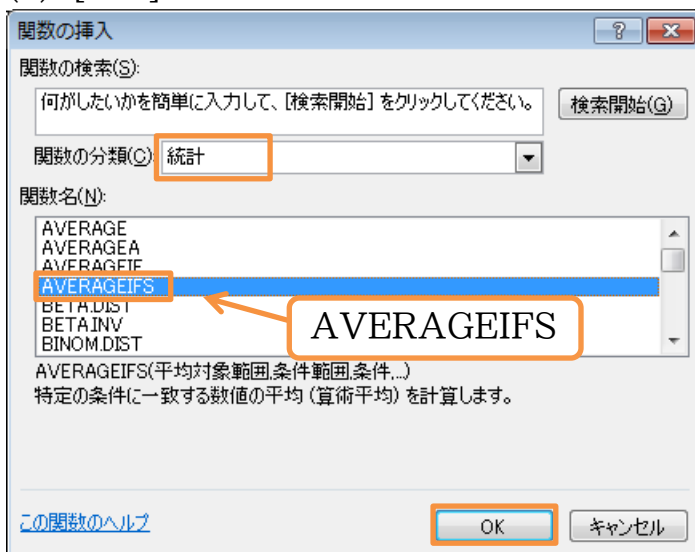
J12

小数点 1 桁まで表示させる

- (6) 今度は K12:L18 までに男女別・クラス別の平均レーティングを算出します。まずは K12 に「S1・男」の平均レーティングを算出し、あとでコピーします。「S1 で男」と複数の条件を指定して平均するので、AVERAGEIFS 関数を使う予定です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1																			
2		会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数			人数	男	女			
3		1	高野	男	48	B1	1370	18	19以下	1	1			S	5	2	3		
4		2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	2			A	5	3	2		
5		3	星	女	34	A								B	8	6	2		
6		4	金子	男	65	B													
7		5	二ノ宮	女	24	S													
8		6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以上	18	4								
9		7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	0								
10		8	千葉	男	64	S1	2300												
11		9	越野	男	41	A1	1850			平均レート	男	女							
12		10	堺	男	18	B3	1170	S1		2290.0									
13		11	諸星	男	35	B2	1360	S2		2063.3									
14		12	佐々岡	男	37	B1	1600	A1		1905.0									
15		13	橋本	女	60	B1	1640	A2		1783.3									
16		14	若月	女	22	S2	2180	B1		1536.7									
17		15	森田	女	57	A2	1790	B2		1335.0									
18		16	青山	男	59	S2	1900	B3		1230.0									
19		17	牛山	男	43	A2	1750												
20		18	飯田	男	61	A2	1810												

- (7) [統計]にある AVERAGEIFS 関数を使います。



(8) [平均対象範囲]は「G3:G20」で行列ともに絶対参照にします。続けてクラスに関する条件を設定します。[条件範囲 1]は「F3:F20」で行列ともに絶対参照です。[条件 1]は「I12」(S1)で、「I列」に対してのみ絶対参照します。

[平均対象範囲]は「G3:G20」で行列ともに絶対参照。[条件範囲 1]は「F3:F20」で行列ともに絶対参照。[条件 1]は「I12」で、「I列」に対してのみ絶対参照。

関数の引数  
 AVERAGEIFS  
 平均対象範囲 \$G\$3:\$G\$20 = {1370;1340;1960;1310;2280;1180;2110;2300} (Note: image shows 1370, 1340, 1960, 1310, 2280, 1180, 2110, 2300)  
 条件範囲1 \$F\$3:\$F\$20 = {"B1";"B3";"A1";"B2";"S1";"B3";"S2"}  
 条件1 \$I12 = "S1"  
 = 2290  
 特定の条件に一致する数値の平均(算術平均)を計算します。  
 平均対象範囲: には、実際に平均を求めるのに使用されるセルを指定します。  
 数式の結果 = 2290  
[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

(9) 続けて性別に関する条件を設定します。[条件範囲 2]は「D3:D20」で行列ともに絶対参照します。[条件 2]では「K11」(男)を指定し、「11行目」に対してのみ絶対参照します。完成後はOKします。

[条件範囲 2]は「D3:D20」で行列ともに絶対参照。[条件 2]では「K11」を指定し、「11行目」に対してのみ絶対参照。

関数の引数  
 AVERAGEIFS  
 平均対象範囲 \$G\$3:\$G\$20 = {1370;1340;1960;1310;2280;1180;2110;2300} (Note: image shows 1370, 1340, 1960, 1310, 2280, 1180, 2110, 2300)  
 条件範囲1 \$F\$3:\$F\$20 = {"B1";"B3";"A1";"B2";"S1";"B3";"S2"}  
 条件1 \$I12 = "S1"  
 条件範囲2 \$D\$3:\$D\$20 = {"男";"女";"女";"男";"女";"男";"女";"男"}  
 条件2 K\$11 = "男"  
 = 2300  
 特定の条件に一致する数値の平均(算術平均)を計算します。  
 条件2: には、平均を求めるのに使用されるセルを定義する条件を、数値、式、または文字列で指定します。  
 数式の結果 = 2300  
[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル



(10) K12 に作成された計算式は L18 までコピーして下さい。

K12											=AVERAGEIFS(\$G\$3:\$G\$20,\$F\$3:\$F\$20,\$I\$2,\$D\$3:\$D\$20,K\$11)							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1																		
2		会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数		人数	男	女			
3		1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1		S	5	2	3		
4		2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	2		A	5	3	2		
5		3	星	女	34	A1	1960	39	39以下	7	4		B	8	6	2		
6		4	金子	男	65	B2	1310	49	49以下	12	5							
7		5	二ノ宮	女	24	S1	2280	59	59以下	14	2							
8		6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	4							
9		7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	0							
10		8	千葉	男	64	S1	2300											
11		9	越野	男	41	A1	1850											
12		10	堺	男	18	B3	1170	平均レート	男	2290.0	2300.0							
13		11	諸星	男	35	B2	1360	S2	2063.3									
14		12	佐々岡	男	37	B1	1600	A1	1905.0									
15		13	橋本	女	60	B1	1640	A2	1783.3									
16		14	若月	女	22	S2	2180	B1	1536.7									
17		15	森田	女	57	A2	1790	B2	1335.0									
18		16	青山	男	59	S2	1900	B3	1230.0									
19		17	牛山	男	43	A2	1750											
20		18	飯田	男	61	A2	1810											

K12 の式を L18 までコピー

(11) 小数点 1 桁までの表示にします。なお、出現しなかったグループにはエラー値が表示されます。

K12											=AVERAGEIFS(\$G\$3:\$G\$20,\$F\$3:\$F\$20,\$I\$2,\$D\$3:\$D\$20,K\$11)							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1																		
2		会員番号	名前	性別	年齢	クラス	レーティング	年代	意味	累積人数	人数		人数	男	女			
3		1	高野	男	48	B1	1370	19	19以下	1	1		S	5	2	3		
4		2	前田	女	40	B3	1340	29	29以下	3	2		A	5	3	2		
5		3	星	女	34	A1	1960	39	39以下	7	4		B	8	6	2		
6		4	金子	男	65	B2	1310	49	49以下	12	5							
7		5	二ノ宮	女	24	S1	2280	59	59以下	14	2							
8		6	馬場	男	47	B3	1180	69	69以下	18	4							
9		7	岡野	女	36	S2	2110	79	79以下	18	0							
10		8	千葉	男	64	S1	2300											
11		9	越野	男	41	A1	1850											
12		10	堺	男	18	B3	1170	S1	2290.0	2300.0	2280.0							
13		11	諸星	男	35	B2	1360	S2	2063.3	1900.0	2145.0							
14		12	佐々岡	男	37	B1	1600	A1	1905.0	1850.0	1960.0							
15		13	橋本	女	60	B1	1640	A2	1783.3	1780.0	1790.0							
16		14	若月	女	22	S2	2180	B1	1536.7	1485.0	1640.0							
17		15	森田	女	57	A2	1790	B2	1335.0	1335.0	#DIV/0!							
18		16	青山	男	59	S2	1900	B3	1230.0	1175.0	1340.0							
19		17	牛山	男	43	A2	1750											
20		18	飯田	男	61	A2	1810											

小数点 1 桁表示に

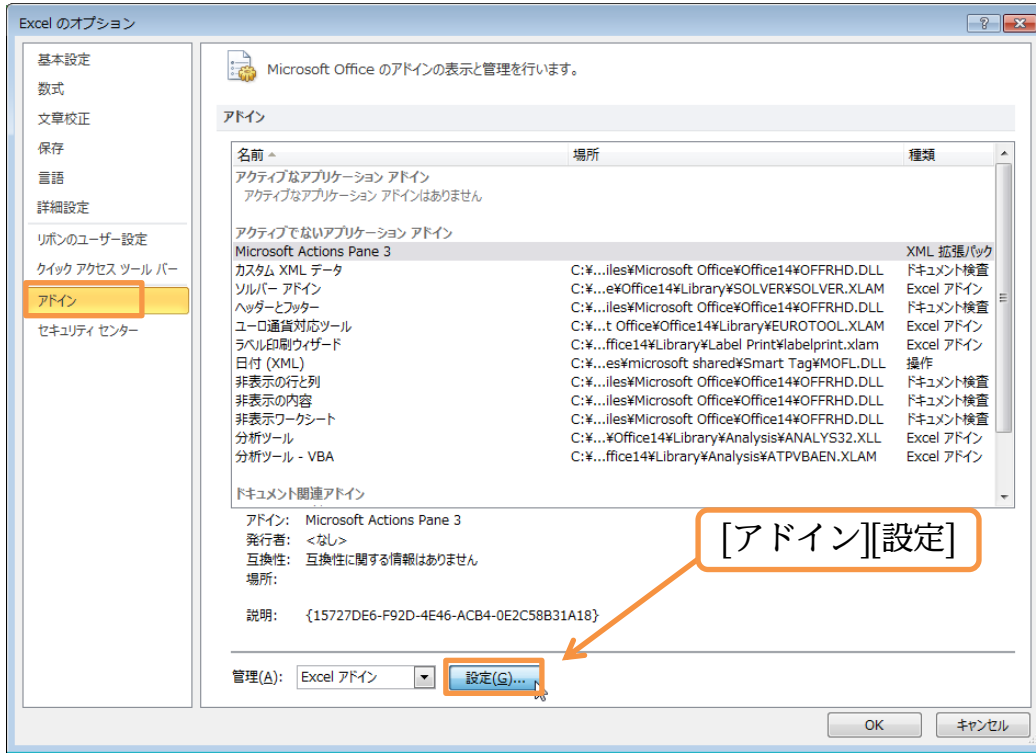
## § 2-5…分析ツールアドインでヒストグラムの作成

(1) 各年代の人数を別の方法で集計させます。[分析ツール・ヒストグラム]という機能を使います。ヒストグラムはソルバーと同様にアドインプログラムであるため、有効にする必要があります。



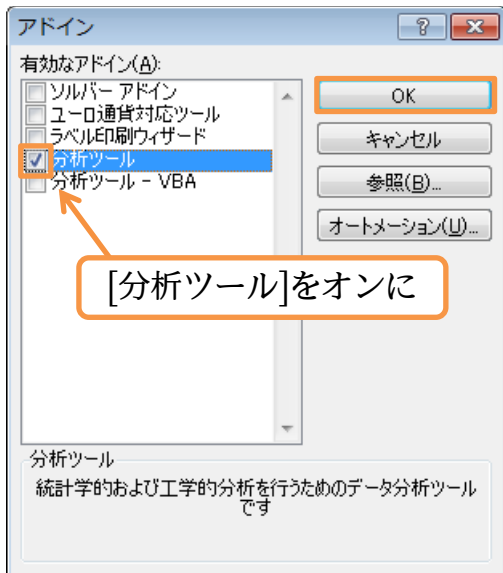
【ファイル】[オプション]

(2) アドインプログラムの設定をします。



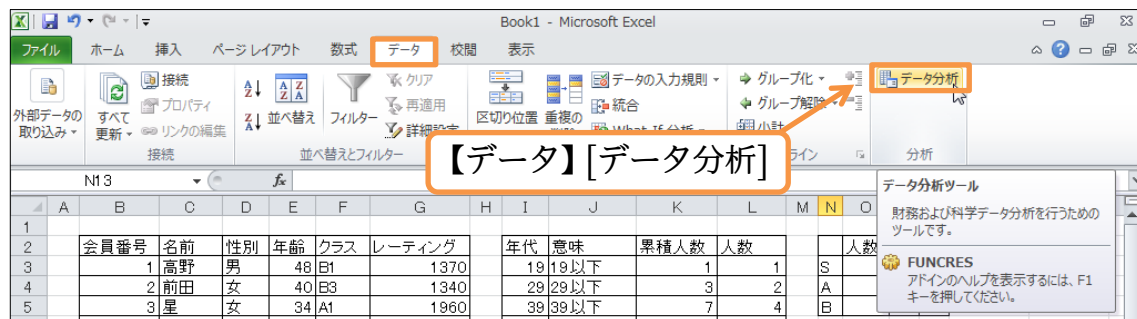
[アドイン][設定]

(3) [分析ツール]をオンにします。

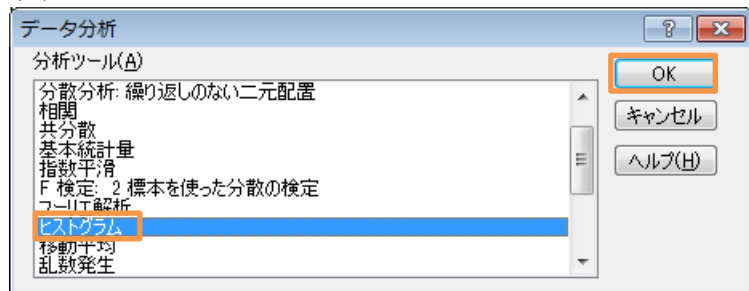


[分析ツール]をオンに

(4) 【データ】タブの[データ分析]を使うとヒストグラム(度数分布図)の作成ができます。



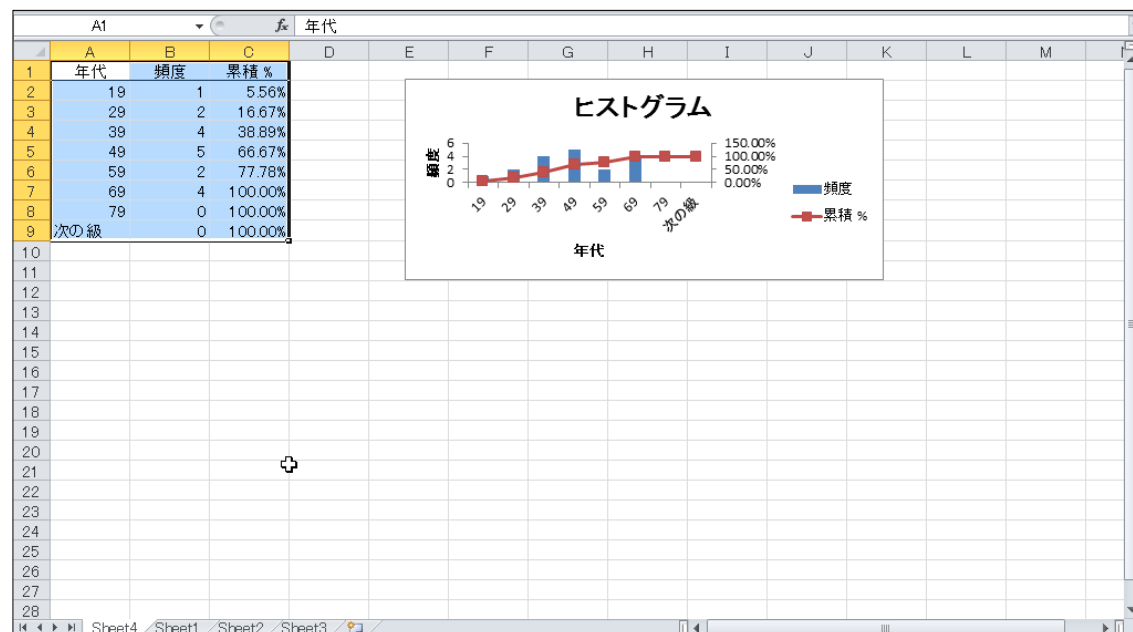
(5) 「ヒストグラム」を選んでOKします。



(6) [入力範囲]に「E2:E20」を指定します。[データ区間]は「I2:I9」です。先頭が項目名なので[ラベル]にチェックを入れます。また[累積度数分布の表示]と[グラフ作成]にもチェックを入れてOKしましょう。分析結果が新規シートに表示されます。

年代	意味	累積人数	人数	人数	男	女	
19	19以下	1	1	S	5	2	3
29	29以下	3	2	A	5	3	2
39	39以下	7	4	B	8	6	2
49							
59							
69							
79							

(7) 新しいシートに各年代別人数・累計人数とグラフが作成されました。完成後はこのファイルは閉じましょう。



## § 2-6…まとめ

- ◆ COUNTIF などの統計関数の検索条件に「<=」などの比較演算子が利用できます。ワイルドカード「\*」も利用できます。
- ◆ 検索条件を複数指定する場合には「S」付きの統計関数を使います。
- ◆ アドインプログラムの「ヒストグラム」を使うと、度数分布グラフが作成できます。

## § 2-7…練習問題

(1) 以下のような注文管理リストを作成します。

	A	B	C	D	E	F
1						
2		注文番号	注文内容	注文数	納品	
3		1	太	57	済	
4		2	極太	15	済	
5		3	中太	2	済	
6		4	極太	3	済	
7		5	細	64	未	
8		6	細	50	済	
9		7	中細	170	済	
10		8	極細	8	済	
11		9	中太	130	未	
12		10	極太	12	済	
13		11	細	18	済	
14		12	中太	220	済	
15		13	中細	5	未	
16		14	中細	19	未	
17		15	細	10	済	
18		16	極太	190	済	
19		17	太	2	済	
20		18	太	69	済	
21		19	中太	66	済	
22		20	細	150	済	
23		21	極太	6	未	
24		22	極細	91	済	
25		23	細	100	未	
26		24	極細	10	済	
27		25	極細	12	済	
28						

(2) 各注文内容の注文件数と注文数の合計を算出して下さい。

	注文件数	注文数合計
極細	4	121
細	6	392
中細	3	194
中太	4	418
太	3	128
極太	5	226
合計	25	1479

(3) 数量が 50 以上の注文を「大口注文」、150 以上の注文を「大量注文」とします。それぞれの件数を算出して下さい。

大口注文	50以上	12
大量注文	150以上	4

(4) 極細～中細を「細」、中太～極太を「太」とします。それぞれの注文数と注文数合計を算出して下さい。

	注文件数	注文数合計
細	13	707
太	12	772
合計	25	1479

(5) 各注文内容別の納品状況を件数で表示して下さい。

件数	済	未
極細	4	0
細	4	2
中細	1	2
中太	3	1
太	3	0
極太	4	1

(6) 各注文内容別の納品状況を注文数量で表示して下さい。

合計	済	未
極細	121	0
細	228	164
中細	170	24
中太	288	130
太	128	0
極太	220	6

## § 2-8…練習問題

(1) 以下のような各メンバーの月間契約取得実績表を作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2		ID	名前	性別	年齢	担当区域	勤務形態	勤務時間	契約件数	
3		1	高野	女	53	横浜南	正社員	188	7	
4		2	前田	女	43	川崎北	派遣社員	199	4	
5		3	星	男	47	県西	正社員	208	4	
6		4	金子	女	49	藤沢	派遣社員	204	4	
7		5	二ノ宮	女	44	藤沢	派遣社員	161	5	
8		6	馬場	女	32	横浜北	正社員	220	4	
9		7	岡野	女	39	川崎北	パート	85	2	
10		8	千葉	男	48	川崎南	正社員	226	7	
11		9	越野	男	47	横浜中央	契約社員	159	5	
12		10	堺	女	37	川崎南	契約社員	189	3	
13		11	諸星	女	51	藤沢	契約社員	191	1	
14		12	佐々岡	男	29	県北	契約社員	205	8	
15		13	橋本	男	25	藤沢	契約社員	217	6	
16		14	若月	男	40	県西	派遣社員	209	3	
17		15	森田	女	36	横浜南	派遣社員	163	3	
18		16	青山	女	34	横浜中央	正社員	171	5	
19		17	牛山	女	26	県西	契約社員	210	4	
20		18	飯田	男	28	県北	契約社員	222	5	
21		19	桑原	男	33	横浜南	派遣社員	205	3	
22		20	前野	女	58	川崎北	正社員	161	4	
23		21	西川	男	23	横浜北	派遣社員	194	5	
24		22	小山	女	23	横浜中央	派遣社員	185	6	
25		23	北	女	30	横浜中央	正社員	229	3	
26		24	阿部	女	52	横浜南	パート	69	3	
27		25	加納	女	23	県西	契約社員	187	9	
28		26	岡部	男	39	川崎南	正社員	216	6	
29		27	山崎	女	30	藤沢	契約社員	172	2	
30		28	橋	男	27	川崎南	契約社員	221	8	
31		29	二ノ宮	女	56	県北	派遣社員	201	3	
32		30	藤井	女	42	藤沢	契約社員	211	4	
33		31	笠井	女	49	横浜中央	契約社員	176	3	
34		32	柴田	男	24	横浜北	正社員	178	4	
35										

(2) 「川崎」と「横浜」区域の契約件数を調べます。

担当区域	合計契約件数
川崎	34
横浜	51

(3) 勤務時間と契約件数との関連性を調べてみましょう。

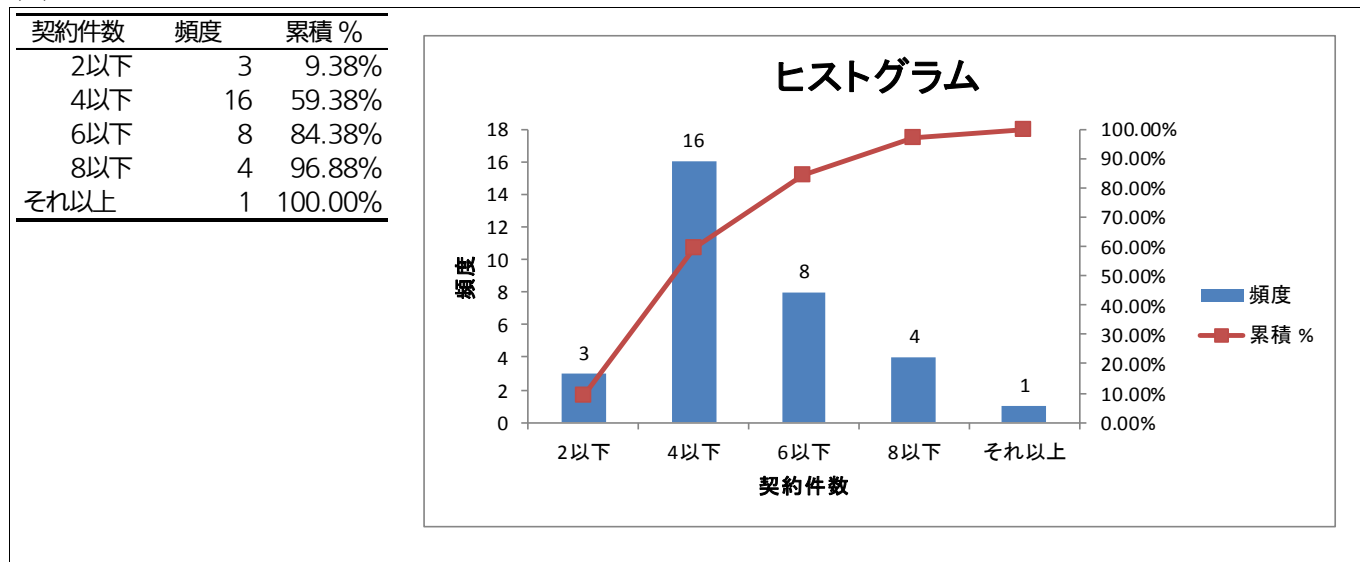
勤務時間	平均契約件数
0 ~150	2.50
150 ~175	4.00
175 ~200	4.67
200 ~225	4.77
225 ~250	5.00

先頭には[勤務時間]が「0 以上」で、[勤務時間]が「150 未満」のメンバーの契約件数を平均する式を作成する

(4) 各年代の合計契約件数を調べます。

		合計契約件数
0才以上	25才未満	24
25才以上	35才未満	48
35才以上	45才未満	30
45才以上	55才未満	34
55才以上	65才未満	7

(5) どれくらいの契約を取った人が多かったのかをヒストグラムであらわしましょう。



(6) 各区域でどれくらい契約が取れたのかをあらわします。また男女別の成績もあらわします。

担当区域	男	女	合計契約件数
川崎北	0	10	10
川崎南	21	3	24
県西	7	13	20
県北	13	3	16
藤沢	6	16	22
横浜北	9	4	13
横浜中央	5	17	22
横浜南	3	13	16

(7) 各勤務形態と性別別のメンバー人数集計表を作成します。なお、35未満とそれ以上で別表にします。

35未満

勤務形態	男	女
契約社員	4	3
正社員	1	3
パート	0	0
派遣社員	2	1

35以上

勤務形態	男	女
契約社員	1	4
正社員	3	2
パート	0	2
派遣社員	1	5

## 第3章:配列数式

### § 3-1…準備

(1) 以下のような表を作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2		商品名	箱単価	ケース数	10ケース以上	×1		小計	消費税		合計1		
3		みかん	¥800	12							合計2		
4		りんご	¥700	6									
5		バナナ	¥300	8							税込計1		
6		いちご	¥1,200	13							税込計2		
7		オレンジ	¥900	15							税込計3		
8		ぶどう	¥600	7									
9													
10				大量発注商品									
11													

(2) 「箱単価×ケース数」をH列に作成します。H3に「=C3\*D3」の式を作成して下さい。

(3) H3の計算式は8行目までコピーして下さい(表示形式は適時調整する)。

(4) セルL2にはH列の合計を算出します。「=SUM(H3:H8)」の計算式を作成して下さい。